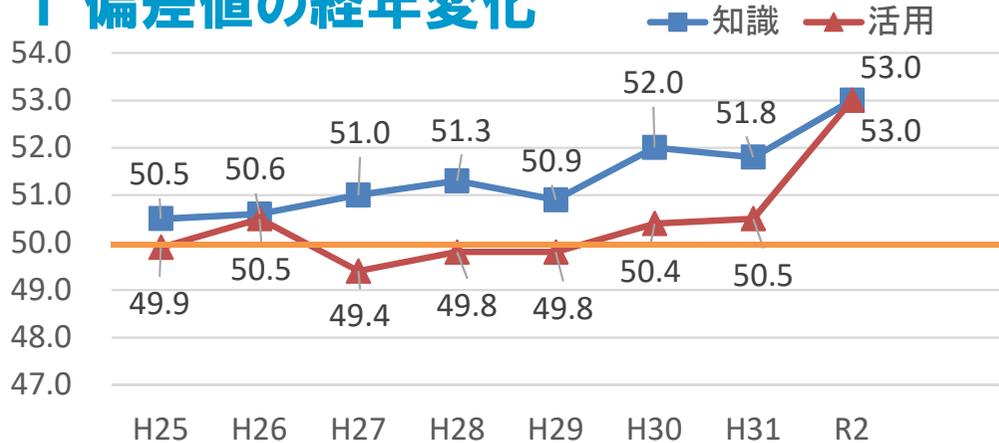


結果のポイント

1 偏差値の経年変化



- 平均正答率は、知識(79.1)、活用(74.1)ともに目標値(知識・71.8 活用・62.4)を上回った。
- 活用問題の偏差値が昨年度に比べ、2.5P上昇し、知識と活用の偏差値の差がなくなっている。

2 領域別の結果

領域	県正答率	全国正答率	目標値
話すこと・聞くこと	82.9	79.1	75.0
書くこと	78.6	66.0	62.5
読むこと	61.2	60.1	58.6
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	84.9	80.7	77.5

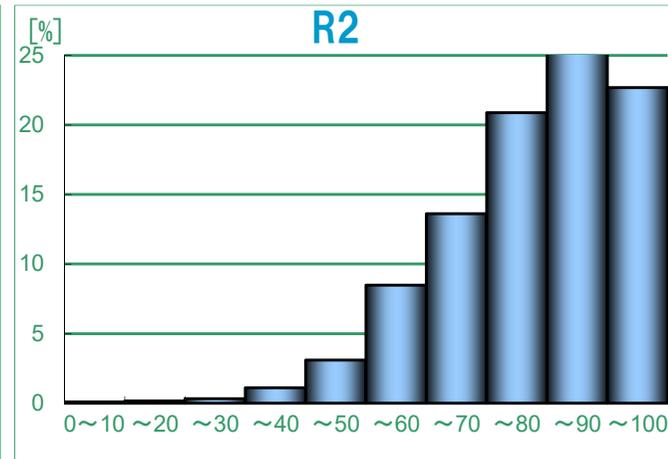
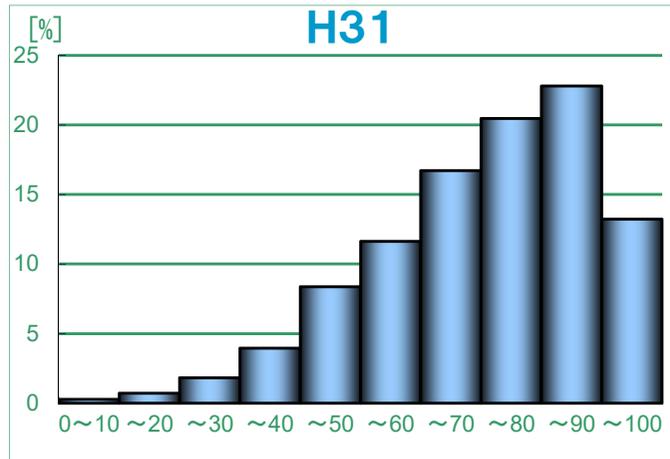
- 全ての領域において目標値及び全国値を上回った。
- ▲小問ごとの分析では、「読むこと」の説明的文章の内容を読み取る問題において、目標値を下回る結果となった。(4問中2問で目標値を下回っている。)

3 観点別の結果

観点	県正答率	全国正答率	目標値
国語への関心・意欲・態度	79.6	69.9	66.1
話す・聞く能力	80.4	76.5	72.3
書く能力	77.4	65.2	61.8
読む能力	63.5	61.8	59.7
言語についての知識・理解・技能	84.7	79.8	76.6

- 全ての観点において、目標値及び全国値を上回った。
- ▲「読むこと」及び「書くこと」における記述式の問題で無解答率が10%を超えたものがある。

4 正答率度数分布の変化



- 低学力層の割合が低い。
- 正答率80%以上の生徒が増加している。

■ つまづきが見られた問題

- 大問4(1) 【参考値】正答率54.0%・無解答率0.3%
 (2) 【参考値】正答率55.9%・無解答率13.1%

「説明的文章の内容を読み取る問題」

- (1) 文章の展開に即して内容を捉えることができるかどうかをみる。
 (2) 文章の展開を捉えて、その内容を整理することができるかどうかをみる。
 ▲文章の中心的な部分と付加的な部分や事実と意見などを読み分けることで内容を的確に捉えることに課題がある。
 ▲文章の構造を踏まえて、キーワードやキーセンテンスなどに留意して情報を整理し、正確に要旨を捉えることに課題がある。

◆ 指導のポイント

- 2年生[C読むこと]の指導事項イの指導事項について指導の充実を図る。指導に当たっては、以下の内容に留意する。
- ▶生徒自身が目的意識をもって文章を読み、必要な情報を整理することができるように指導の工夫をする。
 - ▶必要な情報を過不足なく取り出すことができているかということに加え、どのようにすればその情報にたどり着くことができるのかについて検討するなどの学習活動を工夫する。

★ 指導の具体例

※平成30年「授業アイデア例」の活用
 (https://www.nier.go.jp/jugyourei/h30/data/18idea-mlang_02.pdf)

○平成23年度全国学力・学習状況調査B2で使用した「古生物学におけるネズミ」を読み、必要な内容を捉える学習。

◆以下に示す①～⑦の学習の流れに沿って、教科書に掲載されている説明的文章を用いて指導することも考えられる。

(第1時)

- ① 学習の見通しをもつ。(付属のワークシートを配布)
- ② 1つ目の問いを把握する。
- ③ 問いの答えを見付けるための手掛かりになる箇所を印を付けながら、各自で文章を読む。
- ④ **見付けた答えを書くとともに、どのようにしてその答えにたどり着いたのかを書く。**

重要

⑤ ④で書いた内容について、グループで検討する。

(第2時)

- ⑥ 二つ目の問いについて②～⑤に取り組む。
- ⑦ 学習を振り返る。